

第三百十六話 米国の常套句？「リメンバー」

寡聞にして知らなかったが、米国が関与した戦争には、似たようなパターンがあると云う。多民族国家米国故の宿命であろうか、国民糾合のビッグなスローガンが必要なのだ。帝国海軍の真珠湾奇襲攻撃後に叫ばれた「リメンバー・パールハーバー」と似たような事例が幾つかある。本大東亜戦争メモランダム の範囲外かも知れないが、それらを記し参考に供したい。米国の胡散臭さや対米不信感を煽る積りは毛頭なく、歴史的事実として認識すべきと思料するのみ。米国陰謀論の傍証とする積りはない。

1 リメンバー・アラモ (ロスアラモス) (米墨戦争) 1836年

メキシコ領だったテキサスに入植した米国人(親米派住民)が独立を求め、この支援のために来援したテネシー及びアラバマ民兵189人がアラモ砦に立てこもった。彼等は、サンタアナ将軍指揮のメキシコ軍の攻撃を受け玉砕した。

2 リメンバー・フォートサムター (南北戦争) 1861年

サウスカロライナ州に引き続き南部9州が米連邦を脱退したが、米連邦政府はこれを承認しなかった。南部連合政府は、サウスカロライナ州チャールストンにあった海上砦サムター砦からの退去を要求したが、連邦政府は拒絶、4月、南軍が強制排除を実施した。これを引き金で南北戦争が勃発した。

3 リメンバー・メイン (号) (米西戦争) 1898年

キューバのハバナ沖に停泊していた米軍艦メイン号が突然爆沈(原因不明)し、250名の乗組員が死亡した。米国ではセンセーショナルな報道が起り、マッキンリー大統領も開戦を決意し、米西戦争が始まった。米国は、本戦争でスペインからキューバ、プエルトリコ、グアム、フィリピンを奪取した。

4 リメンバー・ルキタニア (ルシタニア) (第一次世界大戦) 1914年

英国から米国に向かって航海していた客船ルキタニア号が独潜水艦によって誤って撃沈された。この事件で子どもを含む多数のアメリカ人が犠牲になった。ドイツ政府は米国に謝罪し、米国も承諾していた。が、対独宣戦布告の名目としてルキタニア号撃沈事件を大々的に取り上げ、反独感情を盛り上げさせ、戦争に参戦した。



5 リメンバー・パールハーバー (日米戦) 1941年12月7日

日本海軍が真珠湾を攻撃した。大統領は、「アメリカ合衆国にとって恥辱の日」とスピーチし、米国はそれを宣戦布告なしの奇襲「闇討ち」(スネーク・アタック)として大々的に宣伝し、国民世論は一気に参戦へと舵を切ったのだった。

6 リメンバー・トンキン湾 (ベトナム戦争) 1965年

トンキン湾で米国の駆逐艦がベトナムの哨戒艇から魚雷攻撃を受けたとされ、米大統領はこの攻撃を北ベトナム政府による攻撃と判断し、これを名目に北爆を開始した。

7 リメンバー・911 (対テロ戦争) 2001年

9月11日、テロリストに乗っ取られた旅客機が世界貿易センタービル及び国防総省に突っ込んだ。このテロ攻撃はアルカイダによるものとしてアフガンへの派兵とイラクへの攻撃を行った。

* 本稿を書きつつ思い出したのが、某研究者の、“大東亜戦争間における四字熟語の氾濫”との指摘だ。「鬼畜米英」「大詔渙発」「暴支膺懲」「決死奉公」「一撃必殺」「無敵海軍」「魔敵圧倒」「神速入城」「一億一心」「軍民一体」「承諾必謹」等々戦局の推移に応じた四字熟語が新聞各紙に踊った。国民統合・一体感醸成のためには、斯様な施策・スローガンが必要なのだろう。日本は国民統合を主とし、米国は開戦の大義、憎悪の増幅であり、そういう意味においては、似て非なるものか？

(了)